

家庭学習応援だより

第7号

11月は、学習発表会と二者面談があり、ご家庭で学校生活の話題が多かったと思います。保護者の皆様にとっては、より学校を身近に感じられる時間だったのではないのでしょうか。

さて、3学年のフロアに、自主学習ノートが展示されていました。そこでは、3人の児童のノートが紹介されていました。内容は、国語、算数、社会、理科、外国語の学習でした。社会の自主学習に取り組んだ児童は、次の学年の内容(47都道府県と県庁所在地)に取り組んでいました。またある児童のノートは、おそらく飽きずに短時間で取り組める工夫をし、ページを分割して複数の教科の学習をしていました。理科の学習に取り組んだ児童は、自宅で購入した問題集の問題をノートに解いているようでした。自主学習の良さは、自分に必要な学習を、必要な分だけ、学習できることです。現学年の学習内容にとらわれることはありません。この3人の児童に限らず、自主学習に取り組んでいる児童はほかにもたくさんいると思います。実際、違う日には別の3人の児童のノートが展示されていました。自主学習は宿題とは異なり、誰かに強いられているわけではないので、やる・やらないも自由です。ただ、以前も紹介しましたが、内発的な動機によって取り組まれる学習は、学力をより伸ばします。この自主学習のノート展示を機に、多くの児童が自主学習の良さに気づき、校内に広がってほしいと感じました。

外からのやる気で勉強する子の特徴

- ・行動は手段に過ぎない
- ・最低ラインを超えればそれでいい
- ・諦めが早い



内からのやる気で勉強する子の特徴

- ・行動それ自体が目的
- ・どこまでも上を追求できる
- ・粘り強く取り組む



ギモンを解決



ここでは、アンケートで要望のあった勉強への取組を考えていきたいと思います。また、親がしてしまいがちな点や注意しておきたいポイントを Q&A で考えてみたいと思います。

Q.どうしたら自分から勉強するようになるのですか？

→A.ノルマを課すよりも、まずは興味をもつことから始めてみてはどうでしょう。

子供に勉強をさせるときに、親が「今日は〇〇と△△をきなさい」と課題やノルマを設定することは多いでしょう。毎日机に向かうことは、習慣づけるうえでも大切です。しかし、それだけでは、受け身の姿勢が身についてしまう可能性があります。日常会話を通して「何だろう」「知りたい(やってみたい)」と思わせる工夫をしてみましょう。

【たとえば】

- ・日頃の会話から子供の興味を探る
- ・子供に問題の解き方を教えてもらう
- ・博物館や図書館によく出かける



Q.ぜひ身に付けさせたいことは何ですか？

→A.学び続けるためには、自己肯定感を高めることが大切です。

子供は、自分が見守られていると感じ、安心できる環境で、のびのびと自分の個性を発揮することができます。そのためには、自己肯定感を高めることが大切です。本お便りをお読みの保護者の皆様なら、なぜ大切なのかは、もうお分かりですね。自己肯定感は、学習の土台を支えるためにとても重要です。

【たとえば】

- ・子供を兄弟姉妹や他の子と比べない
- ・子供の欠点を否定しない
- ・何かを達成したら必ずほめる、認める



親の学習??



他の家庭での取組も気になるところ。本県での取組を外部に発信している事例がなかったので、他県を調べてみました。埼玉県三郷市では、『**親の学習事業**』として家庭学習に力を入れているそうです。三郷市 PTA の『**家庭学習**』の定着に向けて【学習する雰囲気をつくる 編】、【小さな「がんばり」をほめる 編】より、一部を紹介したいと思います。私自身も腑に落ちる取組がいくつもありました。こちらも学習法や教材と同じで、どの取組が効果的かは、家庭によって異なります。ご家庭に合いそうなものを見つけていただければと思います。また、保護者の皆様の中で、好事例がありましたら、ぜひ紹介してほしいと思います。

〔具体的な取組や雰囲気づくり〕

- 1人だけではなかなかやる気を出しにくい子なので、こちらが出した問題を解いてもらうなど、数分ですが毎日一緒に学習に取り組んでいます。真面目に取り組む時間を短時間でも毎日持てるようにとは思っています。
- 今日やるべきことをメモに書き出して、おわったら済みのチェックをする。
例えば、平日の場合のメモ
習字教室5～6時、学校の宿題、塾の宿題(算数)、
漢字ノート1ページ、英単語ノート1ページ
算数教科書ワーク20～21ページ ピアノ15分
- 毎朝タブレット学習をさせています。まだ一年生なので遊び半分なところがありますが続けさせるためにちょっとしたご褒美をあげています。
- 学習範囲を自分で考えるようにし、学習時間を決める。その時間になったら TV を消し、ストップウォッチで時間を計る。
- 学習時間は親も本を読んだり、仕事をしたり、賑やかにならないように、また、一緒に何かに取り組むようにしている。
- ダイニングテーブルで子供達3人が学習しています。誰か一人がやり始めると、みんな集まり出して学習しています。
- いきなり学習するように言わず、〇〇の後に学習するように事前に伝える。学習中はテレビを消し親も家事や読書などとし、遊ぶ様子は見せないようにする。
- 週末は遊ぶ前に、家庭学習のドリルを勉強する約束になっているので、進んでやる習慣を身につけさせるようにしています。



〔具体的な声かけ〕

- 分からない問題や間違った解答でも、何か答えを導き出そうとしている姿勢を褒めてやる気につなげようとしています。
- 毎日よく会話をするようにして、その中で努力していることを褒め、その努力や取り組みが今後学習面や生活面でどのように役立ち、どのくらい大切なことかを楽しく話すようにしている。
- 自分から進んで取り組むことが学習習慣につながると思い、何を勉強したかというより、取り組んだ姿勢を褒めるようにしています。
- 6年生にもなると、今日学校でどうだった?とストレートに聞いても『楽しかった。』という具合に単語の返事だけになりがちになるので、夕食のお手伝いをしてもらいながら違う話からしてみたり、塾の送迎の車内で2人きりになるタイミングでしてみたりアプローチを考えながら学校での勉強や生活、友人関係などを話します。小さなことでも、本人が頑張っていることなら褒めて毎日のわずかな時間の中ではありますが、子どものやる気を損なわないようにしています。
- 子どものがんばりを家族に紹介する。子どもを直接褒めるのはもちろん、『〇〇くん、こんなことができるんだよ! すごいね!』と子どもの目の前で夫やおばあちゃんに伝えるようにしています。子どもも誇らしそうです。
- 分からない問題や間違った解答でも、何か答えを導き出そうとしている姿勢を褒めてやる気につなげようとしています。
- 結果だけをみるのではなく、得意なこと不得意なこと、できていることでいていないことは何なのかをしっかりと把握し、子供の様子もしっかりみるようにしています。

おわりに

右図は、冒頭で紹介したノートの展示です。日によって紹介される児童が違うので、それぞれ自分に合った家庭学習の仕方を模索しているのだと思いながら、見ていました。保護者の手が入ったノートも多く、家庭での取組の様子が見えてくるようでした。『小学生の究極の自学ノート図鑑』(小学館)という図鑑が出版されているようです。中には、やりすぎというものもありますが、一度ご覧になってみては?

